

# ぶんかざい おおた

令和元（2019）年 10 月 発行

大田区教育委員会 大田図書館 編集  
文化財担当

〒143-0025

東京都大田区南馬込五丁目 11 番 13 号

（大田区立郷土博物館内）

TEL 03-3777-1281 FAX 03-3777-1283

## 目次

- ◆トピック  
洗足池公園が東京都名勝に指定されました…………… 1
- ◆平成30年度事業報告…………… 3
- ◆コラム  
今泉延命寺の子供双盤念仏…………… 4
- ◆新刊のご案内…………… 6

## 第22号

### トピック 洗足池公園が東京都名勝に指定されました

平成31年3月15日付で、南千束に所在する「洗足池公園」が新たに東京都指定名勝になりました。都名勝は、公園や庭園など風致景観の優秀なもので古くから名所として知られるもの、または芸術的もしくは学術的価値の高いものを対象に東京都教育委員会によって選定されます。

洗足池の佳景は江戸時代より、土地にまつわる様々な伝承とともに広く知られてきました。明治時代には、池東岸に勝海舟の別荘「洗足軒」が築かれ、夫妻の墓所が建立されたことでも有名です。近代になり周辺の宅地化が進みましたが、地元と区が一体となり池を中心とした美しい景観を維持してきました。こうした長年の保全活動によって保たれた歴史的風致が評価され、今回の指定に至りました。



洗足池公園の景観

## 洗足池公園の歴史

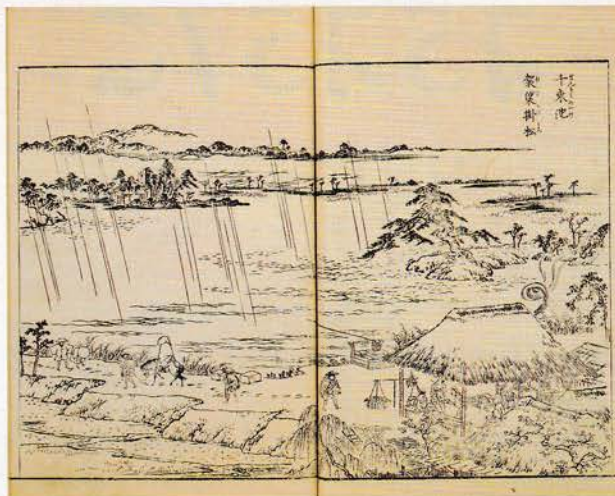
洗足池は北千束の清水窪湧水（区指定天然記念物）などを主な水源とする淡水池です。「洗足」の名称は日蓮聖人（1222-1282）が池上宗仲の館に向かう途中にこの池で手足を洗ったという伝承にちなむと言われています。江戸時代後期には様々な文献や絵画に名所として取り上げられるようになり、その知名度の高さがうかがえます。例えば江戸近郊の地誌『江戸名所図会』では池の広々とした様を描き、南岸に中原街道沿いの茶屋、東岸に日蓮袈裟掛の松、西岸に千束八幡神社を捉えています。現在も星頂山妙福寺では代替わりした袈裟掛の松を見ることができます。また幕末の日本を訪れたプロイセン王国の大使・オイレンブルク（1815-1881）の見聞録によって、たくさんの鳥が飛来する美しい池として海外で紹介されたことは特筆すべきでしょう。

明治23年（1890）頃には勝海舟（1823-1899）が洗足池東岸に農家風の別荘を建て、「洗足軒」と名付けました。現在も園内には海舟夫妻の墓所（区指定史跡）があり、墓所南側には海舟の事績を伝えることなどを目的として昭和8年（1933）に開館した国登録有形文化財・鳳凰閣（旧清明文庫）があります。旧清明文庫は今年9月に区立勝海舟記念館としてリニューアル・オープンしました。

大正時代以降、交通網の整備や居住域の拡大に伴って、洗足池はそれまでの農業用ため池としての役割を終えることとなります。その後はボート遊びで有名な行楽地となり、園内には料理店やテニスコート、有料の遊園地などがつくられていきました。

加速する都市整備の一方で、自然環境の保全是喫緊の課題となり、地元の協力のもとで緑地や水辺の維持に取り組む「風致地区」の指定が行われました。洗足池は昭和5年（1930）に「風致地区」となり、同8年には地元有志により社団法人洗足風致協会（現 公益社団法人洗足風致協会）が設立されました。

これまでに都内各地で風致協会が設立されましたが、現在も活動を続けているのは当地のみであり、地元と行政が一体となって環境保全を続けてきたことは特筆に値します。その結果として、江戸時代の浮世絵にも描かれた中原街道から北に臨む景観が美しく残されていることが高く評価され、東京都の名勝に指定されました。



「江戸名所図会 千束池袈裟掛松」(大田区立郷土博物館所蔵)



勝海舟記念館外観（写真提供：大田区立勝海舟記念館）

# 平成30年度事業報告

## I 文化財公開見学会

平成30年度文化財公開見学会は、11月4日(日)に東京都指定有形文化財「紙本着色新田大明神縁起絵」と、11月17日(土)に国登録有形文化財「私の家(清家清自邸)」ならびに「伊藤家住宅主屋」を対象とした「雪谷の国登録文化財建造物」の2回が開催されました。

「新田大明神縁起絵」は延宝4年(1676)に松平政種<sup>まさたね</sup>によって新田神社に寄進されたもので、今回の見学会は平成28年度に修理が行われたことと、神社の祭神である新田義興<sup>よしおき</sup>(1331-1358)の没後660年を記念して企画されました。「修理現場から見た新田大明神縁起絵」と題して、修理を実施した(株)半田九清堂<sup>はんたきゅうせいどう</sup>の半田昌規氏<sup>はんたまさき</sup>を講師にお迎えし、いかにして修理が進められたかをご解説いただいた後、新田神社宝物殿を見学しました。



半田氏による解説の様子

「私の家」はその名のとおり建築家・清家清<sup>せいけいよし</sup>(1918-2005)が自邸として設計、昭和29年(1954)に竣工した建造物で、戦後の住宅建築に多大な影響を与えたことが評価され平成29年度に国登録有形文化財となりました。加えて、清家清氏生誕100周年ということもあり見学会が企画され、東京工業大学名誉教授の八木幸二氏<sup>やぎこうじ</sup>、奥さまで清家氏ご長女の八木ゆり氏に、実際の生活の様子も交えながらご解説いただきました。



「私の家」見学の様子

「伊藤家住宅」は昭和38年(1963)に建てられました。(アントニン)レーモンド建築設計事務所が手がけたもので、戦前から戦後にかけて試みられた伝統性と近代性を併せ持った木造住宅の追求は、レーモンド・スタイルといわれる独特の住宅類型を呈しています。更に「伊藤家住宅」は、三角形の敷地を活かして建物平面を台形としているところが特徴です。平成27年度に国登録有形文化財となり、平成29年度には改修工事を実施しました。講師はその担当をされていた(有)三日月デザインオフィスの河津あつ子氏<sup>かわづ</sup>にお務めいただきました。



「伊藤家住宅」庭側外観

なお、歴史的建造物の見学会については毎年多くのお問合せやご希望をいただいておりますが、ほとんどが個人の住宅であり、日常的に公開できるものではないため、必ずしもご期待に添える結果とはなりませんことをご理解いただけますと幸いです。

## II 文化財講演会

平成30年度文化財講演会は、11月18日(日)に郷土博物館会議室において「新田義興の奮戦と怨霊伝承」と題して開催されました。こちらも新田義興没後660年にちなんだもので、国立歴史民俗博物館准教授の田中大喜氏<sup>ひろき</sup>を講師にお迎えし、文献史料から辿った義興の足跡についてご講演いただきました。



文化財講演会の様子

歴史事象の一端として新田義興にスポットを当てることで、神社の伝承とは異なる一面を垣間見ることができました。また、多摩川の氾濫等の自然災害と義興の怨念を結び付けて独自の民間信仰に発展したとする御見解はとても興味深いものでした。

## コラム 今泉延命寺の子供双盤念仏

坂本 要

今泉延命寺いまいずみえんめいじ（矢口2-26-17）は古くから火雷除け子安地藏として広く信仰を集めていた。特に7月23日・24日の盆施餓鬼地藏縁日ぼんせがきじぞうえんにちと10月22日～25日のお十夜じゅうやは盛んで、戦前は夜店が立ち並び、近隣からの参詣者でにぎわった。この両行事では双盤念仏そうばんねんぶつが行われ、他寺の双盤念仏の連中が叩きに來たという。双盤念仏は直径40cmほどの鉦かねを並べて、念仏を唱えながら横打ちで叩くもので、別にウマという太鼓が調子をリードする。念仏は古く平安時代の引声念仏いんげいの流れを引くが、鉦の叩きは江戸時代から始まる。延命寺の鉦は4枚あり、そのうち1枚に「武蔵国六郷領矢口村字今泉」とあるため、江戸時代から双盤念仏があったのであろう。明治初期に世田谷区奥澤で斎藤真了くほんぶつじょうしんじという名人がでて、九品仏浄真寺を中心に大田区と世田谷区で弟子を育て、これらの地区に双盤念仏が興隆した。その様子は『延命寺史』（1984年、延命寺発行）に詳しく、大正から戦前にかけて最盛期を迎えた。

昭和20年（1945）4月14日の空襲で延命寺は灰燼に帰すも、昭和33年（1958）に本堂が再建され、昭和36年（1961）に鉦が新調されている。昭和50年（1975）頃には鉦や太鼓を叩ける人は原豊治氏・森賢之介氏・香取道明氏・吉田重蔵氏・香取国治氏・森弘孝氏・森侑氏の7人であったが、高齢化が進み、新入者も少なくなっていた。そのため、この時指導的立場にあった原豊治氏は鉦の叩きや念仏の譜を図にし、ベニヤ板に記して、双盤念仏を習得しやすくした。現在では双盤念仏を譜面に起こす講は多いが、口伝直伝を原則にしていた当時としては、斬新かつ柔軟な対応をしたといえる。また譜を作るにあたって協力した原道子氏などの女性を講に入れることを図った。当時の風潮として男性のみの念仏に女性を入れることは論外であったが、後継者の減少が続いて伝承が途絶えてしまうことを考えれば、適切な処置であったといえよう。その後も存続の危機が続いたが、森裕孝氏や伊藤裕代氏らが大田区文化財担当学芸員の山本たか子氏と相談しながら、双盤念仏を守ってきた。その間九品仏浄真寺で活動をともにしていた川崎大師双盤講の露木一男氏らからの協力も得ている。

平成3年（1991）、今泉延命寺の双盤念仏は都内

に残る双盤念仏の一つとして、用具とともに都指定無形民俗文化財になった。以降新しい講員の加入や、寺の協力もあり、実際に鉦や太鼓を叩ける人が増えていった。平成30年度には太鼓役を務める岡崎剛一郎氏を中心として、地域活性化を見据えて双盤講の組織を保存会にし、奏者以外に行事・芸能の存続発展のための協力者を募った。寺の行事として以外にも、地域行事や学校行事と連携を図りながら進めていく方向になった。



矢口小学校体験学習授業にて指導する岡崎さん

右表は平成30年度の活動記録であるが、伝統的な双盤念仏として通し番号1・2・3・5・7・9・10・12・15が行われた。さらに地域・学校連携活動として通し番号4・6・8・11・13・14・16・17・18を実施した。また通し番号5・10は地域活動としての側面も持つ。

とりわけ平成30年に始まった子供双盤念仏は注目される。矢口小学校サマー・ワークショップ（通し番号6）が発端で、児童と父母が実際に鉦を叩き、「終わり長命」を演奏した。児童70名が参加した「矢口小学校体験学習」（通し番号17）では、全員が鉦を体験するのは難しいため、講員の太鼓に合わせて鉦だけでなく、カスタネットを叩いてもらうなど工夫した。子供たちは鉦の音の大きさや太鼓のリズムに驚いた様子を見せながら、積極的に参加しており、感想は好評であった。

今年度もサマー・ワークショップを開催すると、19人の児童が自主的に参加を決めた。鉦を叩く面白さが引き付けたと考えられる。子供たちは熱心に取



矢口小学校体験学習授業にて鉦をたたく小学生

り組み、最後には実習終了証書も授与されるなど充実した行事となった。もともと双盤念仏は大人の男性の宗教行事であったが、保存会の立ち上げと精力的な活動によって、子供が叩きの面白さを再発見したのである。

こうした双盤講保存会の活動には目を見張るものがあり、日本の芸能の面白さがこんなところにもあると教えさせられるとともに、伝統芸能活性化の方向性もみえてくる。今泉延命寺双盤講が存亡の危機を乗り越えながら柔軟に対応してきた結果と言えよう。

(さかもと かなめ：大田区文化財保護審議会委員)

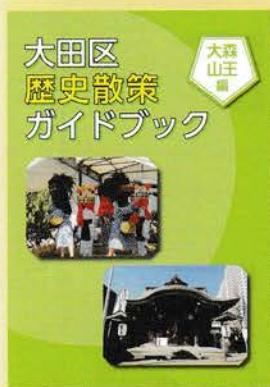
| 番号 | 年月日         | 行事内容  | 開催地                  |
|----|-------------|---|----------------------|
| 1  | 平成30年4月5日   | 増上寺御忌大会   | 増上寺                  |
| 2  | 平成30年5月5日   | 九品仏浄真寺千部法要                                      | 九品仏浄真寺               |
| 3  | 平成30年5月24日  | 延命寺施餓鬼法要  | 延命寺                  |
| 4  | 平成30年6月29日  | 多摩川小学校「歴史クラブ」との交流                               | 延命寺                  |
| 5  | 平成30年7月24日  | 延命寺地藏まつり<br>保育園児と近隣児童400名参加<br>園児の盆踊り後、演奏会      | 延命寺                  |
| 6  | 平成30年8月9日   | 矢口小学校サマー・ワークショップ<br>児童および父母(計25名)が演奏視聴・鉦叩き体験    | 延命寺                  |
| 7  | 平成30年8月16日  | 九品仏浄真寺虫干し法要                                     | 九品仏浄真寺               |
| 8  | 平成30年8月27日  | 矢口トーク主催<br>たまちゃんバス親子ツアー<br>44名が演奏視聴・鉦叩き体験       | 延命寺                  |
| 9  | 平成30年10月24日 | 延命寺十夜法要   | 延命寺                  |
| 10 | 平成30年10月27日 | 東京都文化財ウィーク<br>第3回今泉延命寺双盤念仏特別公開                  | 延命寺                  |
| 11 | 平成30年11月10日 | 川崎市教育委員会主催<br>学んで歩く地名散歩講座                       | 延命寺                  |
| 12 | 平成30年11月14日 | 九品仏浄真寺十夜法要                                      | 九品仏浄真寺               |
| 13 | 平成31年1月4日   | 多摩川七福神巡り  | 延命寺                  |
| 14 | 平成31年1月6日   | 多摩川七福神巡り  | 延命寺                  |
| 15 | 平成31年1月16日  | 九品仏浄真寺初閻魔                                       | 九品仏浄真寺               |
| 16 | 平成31年2月24日  | 蒲田西地区自治会連合会・実行委員会主催<br>第11回 かまにしコンサート           | 東京実業高校<br>フェニックスアリーナ |
| 17 | 平成31年3月14日  | 矢口小学校体験学習授業「地域の学習」<br>先生および生徒(計74名)が演奏視聴・鉦叩き体験  | 延命寺                  |
| 18 | 平成31年3月31日  | 矢口地区自治会連合会・実行委員会主催<br>二十一世紀桜まつり<br>展示コーナーでの広報活動 | 大田区民プラザ              |

# 新刊のご案内

## 1 大田区歴史散策ガイドブック「大森・山王編」「鶉の木・矢口編」

平成17年(2005)に発行した『大田の史跡めぐり(増補改訂版)』が完売となったため、まち歩きガイドブックとして内容を大幅に刷新することとなりました。1冊ごとに数時間～半日程度で歩ける範囲でモデルコースを組んで提示し、実際に文化財関連施設に足を運んでもらうことを目的として、地区ごとに見どころを掲載した内容となっています。平成29年度に刊行した「六郷・羽田」「蒲田・糎谷」編に続き、30年度は「大森・山王」「鶉の木・矢口」の2編について刊行しました。

「大森・山王」編では、都指定無形民俗文化財「水止舞」が開催される厳正寺(大森東3-7-27)や旧東海道、さらに八景坂から国指定史跡「大森貝塚(山王1-3)」に至るコース、「鶉の木・矢口」編では六郷用水「南北引き分け(千鳥3-3地先)」や、「新田神社(矢口1-21-23)」をはじめとした新田義興伝説にまつわる史跡を紹介したコースとなっています。価格は1冊あたり100円です。



▲「大森・山王」編



▼「鶉の木・矢口」編



ガイドブックの内容

## 2 山王横穴墓群Ⅱ (『大田区の埋蔵文化財』第24集)

平成27年度に個人住宅建設に伴って実施した山王横穴墓群(山王一丁目30番地点)の発掘調査の成果を収録した報告です。斜面地が多い大田区では、古墳時代の終わりから奈良時代にかけて(おおむね7～8世紀頃)、古代人のお墓である横穴墓が数多くつくられました。これまでに280基以上の横穴墓が発見・調査されています。

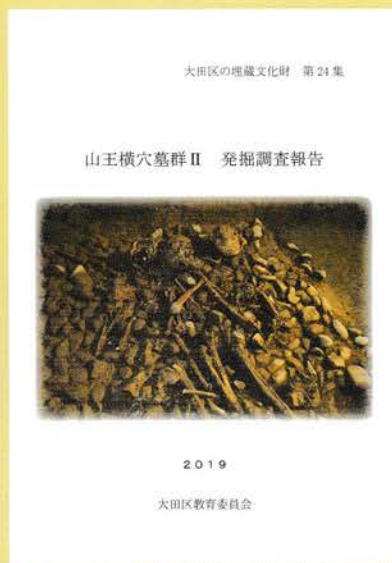
この遺跡では、扇形を呈する斜面(谷)の中段から隣接して2基の横穴墓が発見され、それぞれ3体の埋葬人骨が出土しました。横穴墓は、横穴式石室と同様、後から人を葬る「追葬」が可能な構造をしており、古代の「イエ」(家族)を単位とした埋葬が行われていたと考えられます。報告書には、人骨の性別・年齢などを判別する人類学的鑑定をはじめ、

血縁関係を解明するための自然科学分析(DNA鑑定)の調査成果を収録しています。

1号横穴墓では、母系を契機とする造墓と埋葬が行われていたと推定され、従来から唱えられてきた「家父長制」とは異なる親族構造をもつ事例として注目されます。



1号横穴墓から出土した埋葬人骨



規格 A4判・オールカラー 54頁  
 販売価格 1,000円  
 販売場所 郷土博物館  
 区役所2階区政情報コーナー